

情報可視化論 最終課題
221X013X 陶山周雅

Introduction

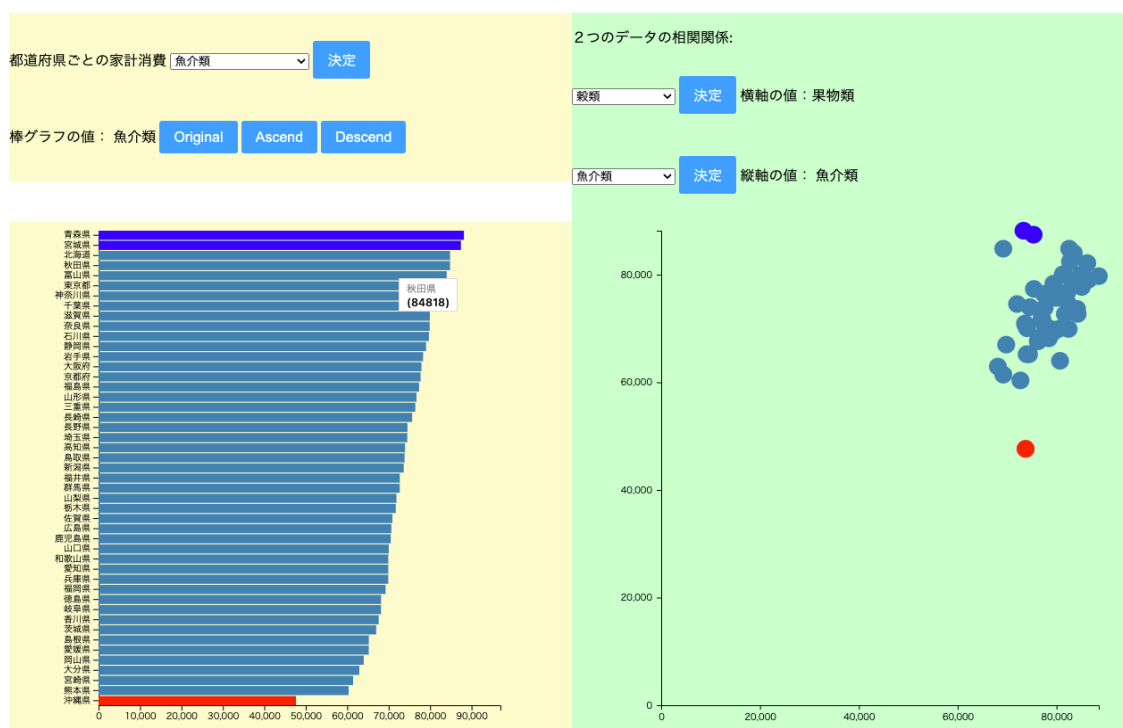
最近スーパーに行くと玉ねぎが異常に高かったりする。また、一人暮らしを初めて 4 年と少し経つが、たまに田舎に帰省しスーパーに陳列された野菜や肉を見ると、「神戸より安い」と思うことがよくある。場所によってスーパーに並ぶ品や種類の数が変わるから、これに伴って需要と供給のバランスで価格が変わったりする。

これからの人生でまた別の場所に住むこともあると考えられ、その際に全国の家計消費を見て分析することで、スーパーに陳列されるものの種類など予測できるのではないかと考えた。

Method

今回可視化を行うにあたって、データの数値を棒グラフで表した。また、2つのデータの散布図を作成した。データを昇順・降順にならびかえる Method を追加することで、都道府県別に大小比較を簡単に行えるようにした。また、棒グラフを選択することでその都道府県におけるデータの色を変更し、注視する事が可能となっている。そして、洗濯した棒グラフの色を散布図と関連づける Method も追加した。

Result



Discussion

今回の可視化でわかったことは「沖縄の家計では、魚介類の消費が他と比べ明らかに少ない」という事だ。

上の画像の散布図では、横軸が穀物、縦軸が魚介類の家計消費量である。穀物の家計消費量は他の県と比べあまり大差ないが、魚介類に関しては沖縄は明らかに少ない。

沖縄には海があるが、なぜこんなにも魚介類の家計消費量が少ないのか気になって調べてみたが、原因は沖縄に生息する魚が熱帯魚である事らしい。(参考1)

Conclusion

可視化することで、意外な発見がある。今回は家計消費量の種類をざっくりと分けたが、さらに細分化することでもっと面白い発見があるとも思う。人口との割合もしてみると面白そうだ。

Reference

(参考1)「場所を変えたら正当な評価を得られた」沖縄の”青い魚”がアジアで売れる理由 <https://sdgs.yahoo.co.jp/originals/29.html>

